

新規事業採択時評価（平成23年度新規事業化箇所）

担当課： 道路局 国道・防災課
担当課長名： 三浦 真紀

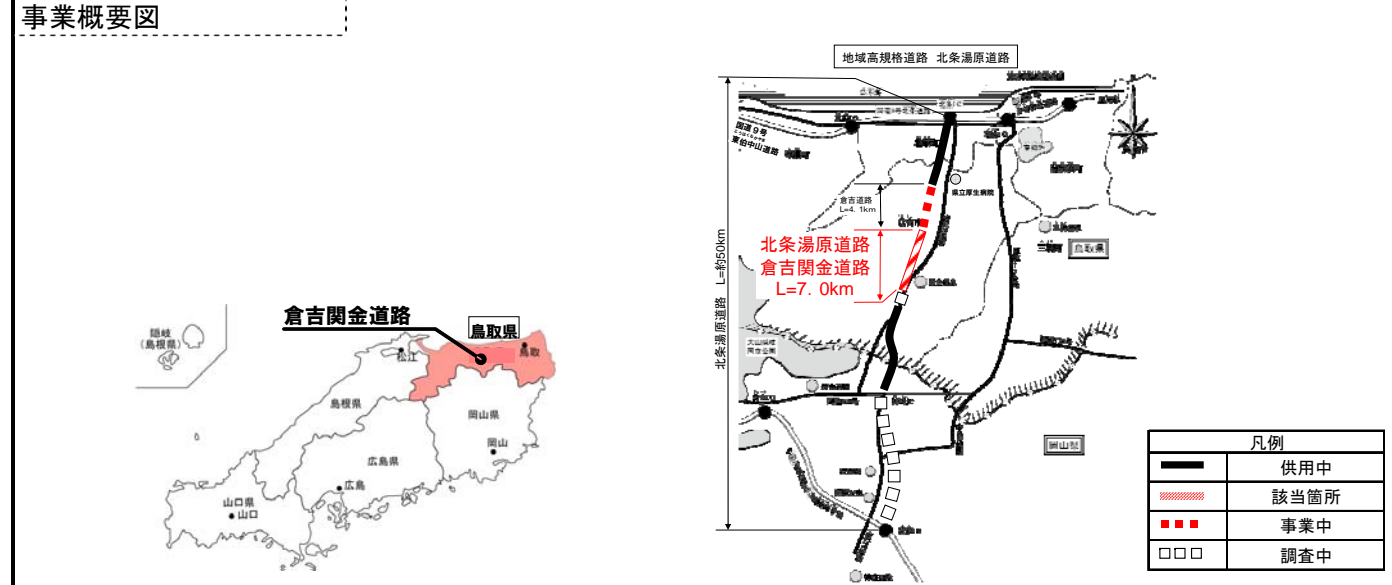
事業の概要

事業名	地域高規格道路 北条湯原道路 一般国道313号 倉吉関金道路	事業区分	一般国道	事業主体	鳥取県
起終点	自：鳥取県倉吉市関金町関金宿 至：鳥取県倉吉市小鴨	延長	7.0 km		

事業概要
北条湯原道路は、鳥取県中部地方生活圏と岡山県真庭地方生活圏の連携を強化する地域高規格道路である。倉吉関金道路は、倉吉道路と現国道313号（関金町関金宿交差点付近）を結ぶ道路で、北条湯原道路の一部を構成し、山陰自動車道及び中国横断自動車道岡山米子線と一体となって広域交通ネットワークを形成する道路である。

事業の目的、必要性
倉吉関金道路は、
・ 現国道313号の幅員狭小区間の回避、渋滞箇所の解消及び交通死傷事故の軽減
・ 地域高規格道路としてのサービス速度の向上
・ 地域観光、産業振興、緊急搬送への寄与等を目的とする道路である。

全体事業費	124億円	計画交通量	10,000台/日
-------	-------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
倉吉市長を会長とする「一般国道313号地域高規格道路整備促進協議会（倉吉市、真庭市、北栄町：H22年6月）」より、倉吉関金道路の早期事業化を求める要望を、事業主体である鳥取県が受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
—

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
地元の団体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境となっている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.3	総費用： 101億円 （事業費： 96億円 維持管理費： 4.9億円）	総便益： 236億円 （走行時間短縮便益：199億円 走行経費減少便益：20億円 交通事故減少便益：17億円）	基準年 平成22年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.1 (交通量 -10%)	B/C=2.5 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=2.6 (事業費 -10%)	B/C=2.1 (事業費 +10%)		
	事業期間変動	B/C=2.5 (事業期間 -20%)	B/C=2.2 (事業期間 +20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	交通が集中する小鴨橋西詰交差点の朝夕通勤時の渋滞の緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 約35.0万人時/年 → 約31.7万人時/年 【1kmあたり渋滞損失時間】 約2.9万人時/年km（現況） 鳥取県平均：約0.72万人時/年km の約4倍 【その他の特徴】小鴨橋西詰交差点（国道313号、（主）倉吉赤碕中山線）の朝夕通勤時の渋滞緩和を図る。（最大渋滞長330m）		
		事故対策	◎	幅員狭小、人家連担により多発している交通死傷事故の軽減が見込まれる。 【安全性の向上（事故の減少）】 死傷事故率 約79件/億台キロ（H11～H20平均） ※鳥取県平均 約46件/億台キロ の約1.7倍		
		歩行空間	—			
	社会全体への影響	住民生活	○	・ 第2次緊急医療施設（県立厚生病院）へのアクセス向上 （真庭市中心部～県立厚生病院：約7分短縮） （岡山県真庭市消防本部の緊急搬送の約1/3が倉吉市内の病院。）		
		地域経済	○	・ 倉吉市の主要産物である農産物及び拠点工業団地（西倉吉工業団地）からの流通の利便性が向上 （西倉吉工業団地～湯原IC：43分→38分）		
		災害	○	・ 緊急輸送ルート（第1次ルート）の代替路を形成		
環境		○	・ CO2排出量の削減			
	地域社会	○	・ 観光産業の促進 （「蒜山高原（年間約225万人）」、「湯原温泉（年間約58万人）」、「赤瓦・白壁土蔵群（倉吉市内：年間約36万人）」 「とっとり梨の花温泉郷（年間約135万人）」を連携する周遊型広域観光ネットワークの強化 （蒜山高原～倉吉市赤瓦・白壁土蔵群：37分→35分）			
事業実施環境	○	「一般国道313号地域高規格道路整備促進協議会」等から強い要望				

対応方針

事業主体である鳥取県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、交通混雑の緩和、交通事故の軽減、緊急医療施設へのアクセス向上等、当事業の整備の必要性、社会全体への効果は高いと判断される。
以上より、本事業を平成23年度新規事業箇所として採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。